

京都市地域・多文化交流 ネットワークサロン通信

発行日 2023年3月31日 編集・発行 京都市地域・多文化交流ネットワークサロン 第42号

「やさしい日本語、やさしい声かけ」 木之本マリルさんにインタビュー

ネットワークサロンの登録団体「JAPINONG SESSIONISTA（ジャピノンセッションスタ）」のメンバーで、外国にルーツのある人たちの支援をされている木之本マリルさんに、ご自身の子育て時代のお話を伺ってみました。

Q：マリルさんは、東九条で子育てをしてくれましたが、その頃の話をお聞かせください。

A：子どもが保育園の年長の時に、東九条に引っ越してきました。小学校に入学して、学校のプリントが「めっちゃ多い」って思いました。その頃は引っ越してきたばかりで知り合いもないし、読めないし、仕事に行く前に学校の職員室に行って教えてもらっていました。Y教頭先生が「木之本さん、今日はどうしたん？書いたろか〜？」って、めっちゃやさしかった。週2回くらい行っていました。提出の締切りがある時は、書き方があっているか何度も行ってました。

Q：外国につながる方たちの支援に関わり始めたきっかけはなんですか。

A：子どもが3年生か4年生の時、多言語進路ガイダンス（多言語で行われる進路説明会のプリントを持って帰ってきて、タガログ語と英語の通訳付きで「めずらしい〜。通



訳付きなんて、めっちゃ助かるやん。」って思って「これ参加します！」って言いました。プリントは中学生の兄弟がいる子どもに配られたもので、間違っただけで「そんなに興味があるんだったら」ということで、申し込みを先生に手伝ってもらって参加しました。そこに通訳で来ていたフィリピン人と出会ったり、教会で出会ったフィリピン人の友人に京都YWCAや京都府国際センターの通訳ボランティアに誘われて「やるやる!」と返事しま

した。そして、小中学校の通訳のお手伝いなどに行くようになりました。京都パグアサ・フィリピンコミュニティに入ったのもその頃です。

Q：コミュニティカフェほっこりの「子ども会」について教えてください。

A：2022年6月に始まりました。フィリピンルーツの子どもたち、その友だちのコリアルーツ、日本人の子どもたちが放課後、ほっこりカフェに来て、宿題をしたり遊んだりしています。最初は月・水曜日の予定だったのですが、毎日毎日来ています（1月までに16人の子どもたちがのべ367回利用）。その中のフィリピンルーツの子どものかばんから、くちゃくちゃになった学校のお手紙が出てきて、スタッフみんなで見たのですが、内容の難しさに驚きました。「お母さんに渡さないの？」と聞くと「どうせママに見せてもわからないから」と言っていました。

Q：学校や保育園、幼稚園の先生にひとことお願いします。

A：外国から来た保護者に、ぜひ、やさしい日本語を使ってください。それと、Y教頭先生みたいに、声かけしてほしい。保育園でも、よく声をかけてくれていた先生の名前は今でも覚えています。やさしく声をかけてくれると、心強くなる。その先生がフィリピン人の保護者をつないでくれたおかげで輪が広がったり、Y教頭が希望の家のバザーを教えてくれたり、先生たちのやさしい声かけが、今の生活につながっています。これがあって、今がある。こんなつながりを感じられることが、東九条が好きな理由です。

<登録団体紹介>

ネットワークサロンの登録団体「やさしい日本語」を広める会は、京都でやさしい日本語の普及を進めています。今回は、その思いや活動内容を書いていただきました。

「やさしい日本語」を広める会について

「やさしい日本語」を広める会は、日本国内で、日常的に日本語で生活している人に向けて、「やさしい日本語」の意義とコツを伝える活動を行っています。

「やさしい日本語」は、相手にわかってもらおうとする優しい気持ちで、易しい言葉・表現で伝える技術です。ひらがなで「やさしい日本語」と書き、まだ日本語に不慣れな外国の人や、高齢者、障害のある人、子どもなどとコミュニケーションをとる方法として、ちかごろ、メディアや行政などで注目されています。

わたしたちは、日本語を第一言語とする人が、言語文化が異なる人々と積極的にコミュニケーションをとることで、誰もが生きやすい世の中になることを願い、活動を続けています。

メンバーは、日本語教師の経験や資格をもっていたり、異文化間コミュニケーションに高い関心のある3名です。以前は全員が、ある在留外国人支援団体のメンバーでした。その団体で外国人受け入れ側の日本社会に向けたガイドブック制作に携わるなかで知り合いました。そこでの活動を進めるうち、特に外国の人たちと接する機会の多い職場の方たちが、どうすればうまくコミュニケーションがとれるかと悩んでおられることがわかりました。わたしたちは、みなさんが「やさしい日本語」を知って活用していただくことで、もっと気持ちを楽しんで、外国の人たちともよいコミュニケーションをとってもらえるのではないかと考えました。そしてその活動に専心するため会を立ち上げ、現在、講座やワークショップの実施、リーフレット等の制作・配布など「やさしい日本語」普及のための情報発信をしています。

「やさしい日本語」とは

30年近く前の阪神淡路大震災の時、日本語が十分ではない外国の人に、必要な情報が、適切迅速に提供できず、亡くなった方や負傷者の数の割合が日本人の倍ぐらいになってしまいました。その反省から、特に災害時、できるだけ多くの人にできるだけ早く必要な情報を提供する方法として研究が始まりました。

実際、日本に住んでいる外国人は日本語がある程度できる人も多く、やさしい日本語ならわかる人を含めると7割近いと言われていています。その割合は英語がわかる人よりずっと多いのです。日本人が意識をして、通常の日本語を「やさしい日本語」に変えることで日本語が十分でない外国の人ともコミュニケーションをとりやすくなります。「やさしい日本語」は日本社会でより多くの人とわかり合うための「共通語」と言えます。

「やさしい日本語」にはこうすれば必ず通じるという正解はありません。でも伝わりやすくするための以下のようなコツがあります。

◆心がまえとして持つておくこと

- ・笑顔でゆっくり話を聞くことで、相手の緊張を解き、話しやすい雰囲気を作る。
- ・伝える前に情報を整理し、それだけを簡潔に伝える。

◆話し方として意識すること

- ・「はさみ+ゆ の法則」で聞き取りやすく話す。

はっきり、**さ**いごまで言う。**み**じかく話す。**ゆ**っくり話す。が大切なポイント

◆敬語を使わないこと

敬語はかなり日本語が流暢な人にとっても難しいので避ける。「～です」「～ます」で話す。

◆言い換えをすること

相手が理解できる言葉に言い換える。外国の人にとってわかりにくいので避けた方がいいのは次のような言葉。オノマトペ（擬音語、擬態語）、漢語・熟語、方言など。

例

説明書きをご覧の上、こちらにご記入いただけますでしょうか。

やさしい日本語 →ここに 説明が あります。これを 読んで ここに 書いてください。

さらにもう少し →もし、あなたが わかりません。わたしが いっしょに 書きます。

このコツについては、当会のリーフレット「外国人にわかりやすい やさしい日本語—保育・幼児教育施設編—」に、もう少し詳しく「やさしい日本語」の文も例示してまとめているので、ぜひご一読ください！

リーフレットの全体は下のQRコードからご覧いただけます。



これまでの主な活動

さまざまな調査から、日本に住む外国の人たちにとって困りごとの多い場は、役所、病院、学校だと言われています。どの場所も生活のための最重要な情報のやりとりが必要なところです。また、そこで働く人たちも、目の前の対応に苦慮してこられました。

この中で、学校（教育現場）はこれからの社会を担う世代、外国につながる子どもを含めたすべての子どもを育てる大切な場所です。また保育・幼児教育現場にとっても外国につながる子どもを受け入れ、円滑な義務教育就学につなげ、子どもの健全な育ちを保障することは喫緊の課題と言えます。

わたしたちは、ここ2年半ほどは主に保育・幼児教育施設を対象とした活動をしてきました。

2020年に、上京区の幼稚園で職員の皆さんに「やさしい日本語」のコツを学び、日本語学習中の外国人ゲストとコミュニケーションをとるワークショップを実施しました。

「英語でなくても、日本語を工夫することで通じるんだ!」「ワークショップで学んだこ

とがコミュニケーションに役立っており、保護者さんから『これは日本語で何と言いますか』と質問されることもあります」と反響がありました。

保育・幼児教育と一言言っても、現場の状況や課題は施設によってさまざまです。本当は、各施設にあわせたワークショップを進めたかったの



ですが、コロナ禍で対面での実施が難しく、その間は「やさしい日本語」リーフレットを作成・配布したり、各施設へのアンケートやヒアリングを実施したりしました。

保育・幼児教育（子育ての場）での「やさしい日本語」

リーフレット作成時は、「やさしい日本語」のコツをお伝えすれば、現場で役立ててもらえると考えていました。でも、ヒアリングをしていく中で、「現場の先生方は、『やさしい日本語』という表現が使われるようになるずっと以前からやさしい日本語的な対応をされていた、つまりあらゆる工夫をして外国につながるご家族とのコミュニケーションに努めてこられたのだ」と改めて気づかされました。

子育ての場で必要な「やさしい日本語」とは、特定の相手と信頼関係を積み重ねていくためのものです。子育ての場で働く皆さんには、外国につながるご家族とわかり合いたいという強い気持ちが前提にあり、安心して心を開ける関係を築いていらっしゃいました。

外国につながる子どもの受け入れ経験が豊富な施設にも、お話をお聞きすることができました。そこで「保護者に親身になって通訳などの施設との橋渡しをしてくれる人を見つけることが、ご家族とのコミュニケーションには欠かせない」と教えていただきました。

一方で、手助けをしてくれる人は、保護者や施設の自助努力により何処かから見つけてくるしかなく、特定の人に負担がかかり、その人の善意に頼る状況であるという課題も見えてきました。行政によっては、必要に応じて通訳や専門家を派遣するなどのサポートがあるようです。この動きが、もっと広まればよいと思います。

2022年度は、こういった内容をまとめて「保育・幼児教育施設へのヒアリング報告書」

を作成・配布し、子育ての場に焦点を合わせたワークショップ 「やさしい日本語を使ってみよう」を実施しました。参加者からは、「単にことばの言い換えだけではなく、文化や習慣の違いが背景にあたりるので奥が深いと感じた」などの反響がありました。

保育・幼児教育施設へのヒアリング報告書



今後の活動について

最近、さまざまなつながりの中で、交通局や警察、薬局・薬剤師などの窓口でのコミュニケーションについて私たちの活動を知ってもらう機会が出てきました。このように様々な職域で、より多くの人に「やさしい日本語」を知っていただき、次はそれを広める人になってほしいとわたしたちは願っています。今後、保育園や幼稚園はもとより、いろいろな職場での研修を実施していきたいです。

関心をお持ちの方は、ぜひ当会にお声がけください。

「やさしい日本語」を広める会

Mail: hiromeru.yasanichi@gmail.com

Web: <https://tsukuru-kyoto.net/bank/387-2/>

保育・幼児教育施設や学校の先生方は、外国につながるご家族にとって共に子どもを育てる立場の方たちであり、身近で頼りになる存在だと思います。日々の丁寧なコミュニケーションが信頼関係につながります。よいコミュニケーションのために「やさしい日本語」を活用していただければと思います。

編集・発行 京都市地域・多文化交流ネットワークサロン

□所在地：601-8006 京都市南区東九条東岩本町31

□tel：075-671-0108 □fax：075-691-7471

□開館時間：9時～17時 □E-mail：info@kyotonetworksalon.jp

□webサイト：<http://www.kyotonetworksalon.jp>

□JR京都駅八条口・JR京阪東福寺・市営地下鉄九条駅より徒歩15分

□京都市バス202・207・208系統 九条河原町より徒歩10分

16・84系統 河原町東寺道より 徒歩1分